

大槌高校だより

大槌高校の学校生活や日々の様子を町民の皆さんにお伝えします！



HP



note

大槌高校HPやnoteでも
学校生活の様子を
発信しています！

120人がおしゃっちに集結！



令和5年11月22日（水）大槌町文化交流センターおしゃっちで「高校生と語る これからの大槌高校を考える会」を実施しました。地域の皆さん、教員、生徒あわせて120名が集まりました。

大槌高校2年 菊池康介さんと兼澤美海さんの生徒2人と、菊池竜太教諭が「地域と高校生で何ができるのか」というテーマでプレゼンテーション発表を行い、その後「これからの大槌高校生が地域に飛び込んでいくためにどうしたらよいか」について、熟議をしました。

生徒からは、「こんなに自分たちのことを考えてくださる大人がいるということに気付きました」「自分もこれから大槌町を盛り上げていく存在になっていきたい」などと感想がありました。

ここでいただいたアイデアやご意見をもとに、これからの大槌高校を進化させていきたいと思えます。お忙しい中、足を運んでいただきました地域の皆さん、本当にありがとうございました。



輝く大高生

近年、マイクロプラスチックも含め、海洋プラスチックごみが問題になっています。

この問題の解決のためには、どこにどんな種類のプラスチックがどのくらいあるかの情報がとても重要になってきます。また、漂着物にはプラスチックだけでなく、さまざまな物が含まれており、それらの情報も重要となります。

大槌高校はま研究会の漂着物班の生徒は、調査データの少ない三陸沿岸の漂着物の特徴を明らかにすることを目的とした岩手県船越湾における漂着物の特徴、2年間のモニタリング調査を東京大学大気海洋研究所の皆さんとともに行ってきました。その結果について、令和5年11月18日（土）におしゃっちで行われた第22回漂着物学会で発表しました。

ポスターセッション発表をした、大槌高校3年小國優菜さんおくにゆうなにその日の感想を聞いてみました。



自分たちが学会で発表をさせていただくという本当に貴重な経験をする事ができました。地域によって漂着物が異なるので、大槌町の漂着物を分類し、調査した結果を県外の人たちに伝えられたことが嬉しかったです。漂着物の言語表記から、どこから大槌にたどり着いたのかについて考えたことについても話すことができました。

